DANDIN

男子専科

1月号平成2年1月1日発行
第37巻通巻310号
(毎月1回1日発行)
昭和50年3月3日第3種郵便物認可

1
1990
JANUARY
No.310

大人感覚を磨くファッション誌

Many Many Thanks. 創刊40周年 40th Anniversary

いま、ジャケットを着ると、トレンドがみんな見える

ジャケットに見る'90ネオ・トレンドの方向

ジャケットこそ最重要ベーシック・アイテムだ

ジャケット・コーディネート・ブック

このブランドのこのジャケットに注目したい

ジャケットの色を変える。シンプルかつ大胆なたのしみ

マテリアルにこだわってナイス・ジャケットを探す

ジャケットのためのボトムを考える

特集●

1990ジャケットのすべて

DANSEN 男子専科

1 1990 JANUARY No.310

CONTENTS

ISSEY●ニューヨークの肖像㊾ケニー・シャーフ 8
WATCH THE PARTY●ジャンニ・カリタのパーティー 10
GOODS●どうしても手にとってみたくなるバッグ発見 13

特集●1990ジャケットのすべて 18
いまジャケットを着るとトレンドがみんな見える 19
ジャケットにみる'90ネオ・トレンドの方向 28
ジャケットこそいま最重要ベーシック・アイテム 30
ジャケット・コーディネート・ブック 32
このブランドのこのジャケットに注目したい 44
ジャケットの色を変えるシンプルかつ大胆なたのしみ 50
マテリアルにこだわってナイス・ジャケットをさがす 56
ジャケットのためのボトムを考える 66

WORLD FASHION TOPICS 67
ひと足早く春のシングル・コートに注目 70
LEATHER AND MEN 76
talking●La Rencontre〈関口甫〉 82
DANCE ON FASHION●甘味処で味わいながら、ジャパネスクに浸りたい 他 84
L'avanture Dans Le Japanisme 90
カラード・シャツの復活 97
洒落男は小物でキメる 100
ドレスアップした外出、そして帰宅「ランバン」 102

プレステージ・ブランドを着る●ジョルジオ・アルマーニ 106

セーター&セーター・カタログ 116

ウインター・カジュアル・スタイル・ブック 124
THIS ONE今月のこだわりウエア●Kオブ・クリツィアのレザー・ブルゾン 128
今月のファッション・イメージ●ソフト・スーツもカラー時代〈池田ゆう〉 130
FASHION PEOPLE●気になる男のファッショントークVol.37大塚弘 132
MICHELE YVANESのPARIS NOW●パトリック・ランゲ 134
DANSEN DONNA●モードを着る女たち㉕麻生圭子 136
冒険の風景⑬●久しぶりにヨーロッパの旅〈向田直幹〉 138
RAMBLING●仲間で楽しめる洒落た店 141
プレゼント・コーナー 146
DANSEN HOT LINE 147
不思議の国の旅●ソフトということ〈高山能一〉 150
男らしさの演出家たち⑬煙草〈高橋睦郎〉 152

新連載●世紀末プラネタリウム①想い出のサンジェルマン〈海野弘〉 156

壱番町界隈「ディア・マイ・フレンド」〈山際淳司〉 158
誰かが誰かを愛してる●クリスマスの贈り物〈売野雅勇〉 160
インタビュー●木村實 162
ウロボロスの尻尾●U.F.O. 166
TOKYOは世界の建築ギャラリーと化す 172
ヘア●ウェービー・ヘア 176
ENTERTAINMENT●マラヴィア〈伊藤史朗〉 178
talking●NEXT TREND〈進藤万里子〉 183
talking●獅子座日記〈岩沼妣左恵〉 184
MIDNIGHT ROLL-PLAYING 183
MUSIC●ボリス・グレベンシコフ〈山田道成〉 184
CIN PREVIEW●大作揃いのなか、キラリと光る佳作を見つけた〈荻尾瞳〉 186
DANSEN LOUNGE 192
アド★協力店ガイド 193
EDITOR'S CORNER 194

P.18

P.106

P.116

COVER
撮影●原田澄
モデル●トーマス
ウエア●ビル・カイザーマン
デザイン●杉山明
本文レイアウト●PENCIL STUDIO
男子専科1月号No.310
1990年1月1日発行
発行人：志村敏
編集長：貞岡宏幸
発行所：スタイル社
〒105-91 東京都港区西新橋2-11-4
☎03-501-8081代
印刷所：凸版印刷㈱ 大日本印刷㈱
㈱東京印書館 ㈱千代田グラビヤ印刷社

〈本号掲載の写真、イラスト、記事等の無断転載を禁じます〉

ISSEY● ニューヨークの肖像 49

KENNY SCHARF

●ケニー・シャーフ
画家

Photographed by Willam Coupon
ウィリアム・クーポン
1952年マンハッタン生まれ。シラキュース大学でＴＶとラジオを専攻。広告代理店にはいりＴＶコマーシャルのプロデューサーとして働いた後、写真家として独立。とくにポートレートを好み作品はＮＹタイムス、エスカイヤなどに掲載されている。
コーディネート●金井　純

今日もどこかで、大森林が姿を消している。'90年代の地球人に、あまり時間は残されていないんだよ。

「少しでも多くの人に見てもらいたかったから、まず、ぼくは『街』にでた」

落書き画家。つまり、グラフィティ・アーティストとして、ケニーは、まさに'80年代ニューヨークの申し子だった。

「テレビ、電話、冷蔵庫、ラジオ…なんでも！　ぼくにとっては、みんなキャンバスだったんだよ」

路上、壁、ビル。さまざまな日常品の上にもエネルギッシュに描きまくり、彼と仲間は、イースト・ヴィレッジ派と呼ばれる新しい風を美術界に巻き起した。

「あの頃は、あのジャン＝ミッシェルもまだ元気だったし…」

ISSEYを着る画家として、このシリーズにも登場したキース・ヘリングや故人となったジャン＝ミッシェル・バスキアとは美術学校時代からの友人。ケニーを含めて、いわばイースト・ヴィレッジ派ご三家と呼ばれる仲間たちだった。

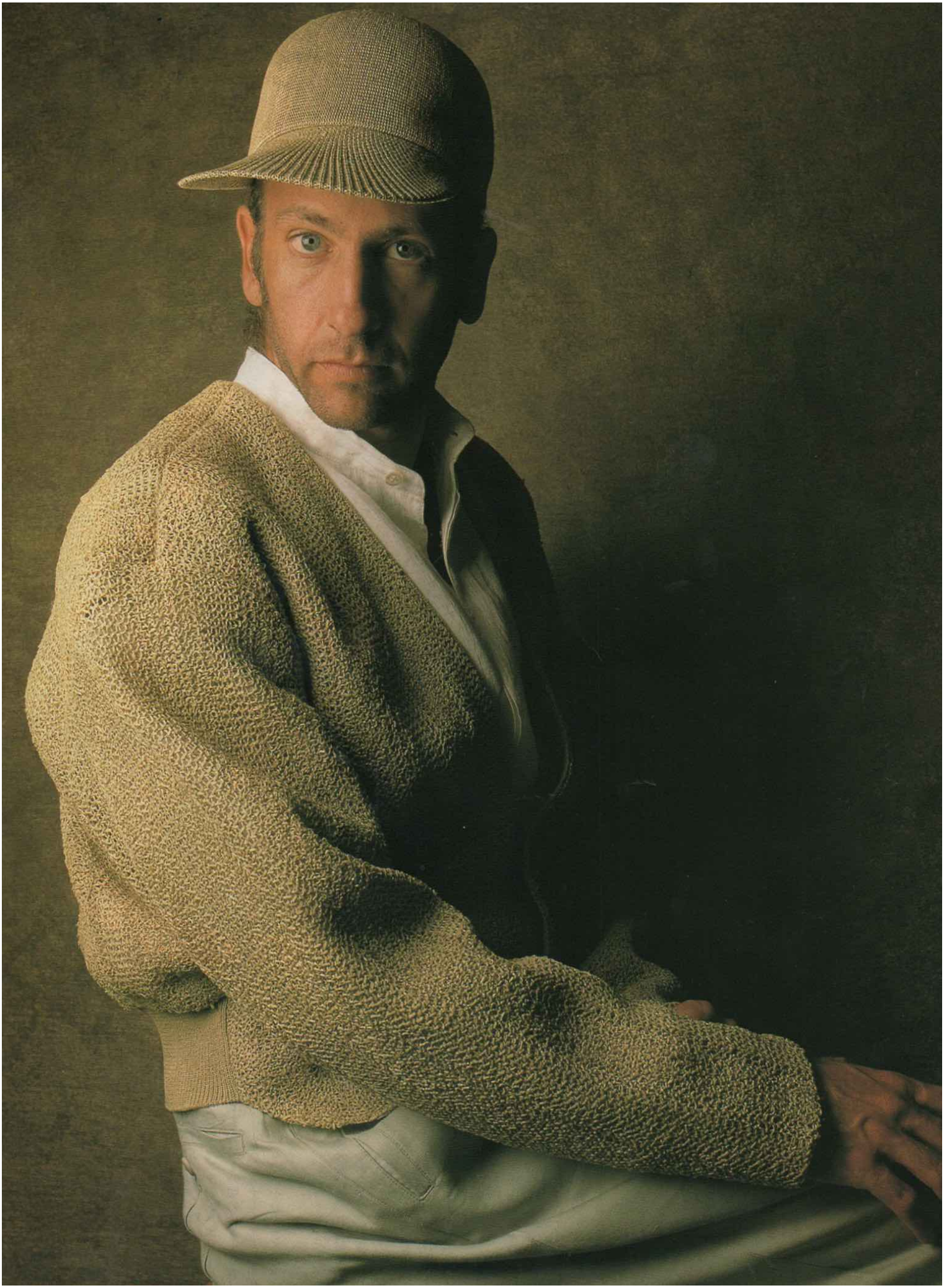
「でも、ぼくらが起こした動きも、実際には1985年くらいで終ったんだと思うよ。商売ばかり考える画廊やスノッブな贋作作家が増え過ぎた。心からほとばしるような楽しいアートは無くなった」

「幸いにして、ぼくは、この商業主義の流行にも押し殺されず、逃げのびたけどね(笑)。だから、こうして今も、自分のしたい創作活動だけをマイ・ペースで続けているわけだ」

そして、そんなケニー・シャーフが、ここ数年、たびたびニューヨークから姿を消すようになった。年のうち3か月はブラジルで過ごすことが多い。

「理由は環境保護運動のためなんだよ。ブラジルへ初めて行ったのは7年前だけど、バイアという海辺の町を訪ねたとき、そこにかつては1000マイルも続いていた大森林が、現在は、その1%も残っていないことを知って、愕然とした」「大森林伐採はブラジルだけの問題じゃない。世界中の人間が、大森林から生じる空気に頼っていることを、ぼくたちは忘れがちなんだよね。大森林は天災を吸い取るスポンジのような役割りもしてるし、空気汚染のフィルターの役割りもしている。いまや森で育っていた動物や植物もほとんど見られない状態だ」

以来、ケニーたちの保護活動は直接政府に交渉する形で続いている。'89年春には、ブルックリンでレイン・フォレスト救済の大ロック・コンサートも開催。マドンナやデービッド・バーンなどが出演して百万ドル以上の救済基金を集めた。その資金で森林の一部を買取り、自然保護区域にすることに成功している。

「あと10年。21世紀までに、今も続いている自然破壊から大森林を救わないと、確実に手遅れになる。ぼくたちには、もう、あまり時間は残されていないんだよ」

地球人へのメッセージを込めて、今年ケニーは作品集『ジャングル・ブック』を、日本でも出版する。　(海津　実)